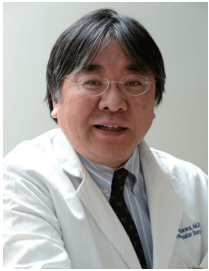


ごあいさつ



日本WHO協会 理事
大阪大学 特任教授
大阪けいさつ病院 院長
澤 芳樹

「医療の近未来予想図」

世界最速最先端で高齢化社会を進む我が国において、従来の創薬や医療機器開発の時代から、新たなサイエンスの発見に基づく新しい治療開発への挑戦が始まり、これまで治らなかった人が治る医療イノベーションの時代に突入しつつあります。

最近の医学医療においては、特にここ10年の進歩は、過激といっても過言ではないほどのスピードで進歩しています。いち早く新しい医学や医療技術を取り込み実用化することで、この10年間に於いて医療は大きく進みました。特に新型コロナに対してmRNAワクチンによる新型コロナパンデミックの克服は、まさに医学のレジリエンスといえます。

近年、世界情勢は日々緊迫感をまし、明日をも知れない危機的状況になっています。一方、生活の合理性を高め究めるはずのテクノロジーの進歩、ITやAI等の技術革新は国を超えて急速に拡散するSNSやFake情報戦争は人間のエゴや人種のポピュリズムを一層過激で複雑にしています。

その観点からすると今後の医療の未来予想図として最良と最悪の二つのパターンが予想されます。おそらく、AI診断ゲノム医療等による医療の革新化は、予測医学や予防医学を進歩させます。一方、ロボティクス等革新医療機器で治療手技が超低侵襲化し、医師の活動や領域も大きく変化

します。一方、iPS細胞による再生医療が完成すると、臓器機能が修復され臓器不全が克服され、がんや循環器疾患など多くの病気や感染症が制御され克服されます。ともすると、アンチエイジングも科学の進化で現実のものとなり、老化の制御や認知症も回復できるようになる可能性があり、多くのヒトがDNAレベルの天寿を元気に全うし、欧米や日本は人生100才以上のWell-being時代になりうるのではないのでしょうか。

一方、最悪の場合は人の私利私欲とエゴが災いし、民主主義国家の衰退と権威主義国家の台頭はすでに始まっており、巨大国家のエゴやポピュリズムは、国家間の争いを激化し、SNS等の情報過多は人の心を扇動し国家の壁や境界が崩れつつあります。地球温暖化や地球規模の汚染は制御できず、地球環境が崩壊しつつあります。再び新型コロナウイルスのような未知の感染症が制御不能な状況で、人類を滅亡の危機にさらさないとも限りません。一方、AIが人間の能力を上回り制御不能になる可能性も懸念され、人類も自然淘汰されていくかもしれません。

近未来が、このような最悪の事態を避け最良の事態に近づけるために何が重要なのか、今回の新型コロナのパンデミックに、改めて、地球規模で考えるべき神の啓示であったのかもしれませんが。そのうえで、WHOの果たす役割と期待は大きいと考えられます。私も理事の一人として、WHO協会を通じて微力ながら少しでも貢献できればと思っております。

令和6年4月